

平成 30（2018）年度  
運営に関する計画  
中間評価

大阪市立矢田西小学校

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

学力面では、学校の落ち着きとともに全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等において、基礎・基本の定着を図る取組を継続してきたこともあり、徐々に効果が表れつつある。しかしながら、まだまだ基礎・基本の定着が不十分な児童も見られる。また、家庭での生活習慣のあり方などでは課題が残る状況である。

このような状況の中で、「確かな学力」をはぐくむために、児童の実態に沿ったきめ細やかな授業法を確立させる必要がある。また、継続して、児童に基本的な生活習慣を定着させるとともに、しっかりした規範意識をもたせ、児童の授業に取り組む姿勢の改善や学習意欲の向上を図っていくことが必要である。

**中期目標****【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】**

- 「防災・減災カリキュラム」を活用する。学校診断アンケートにて、「避難訓練などを通して、防災・減災の意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。
- 安全教育を推進し、防犯・安全な歩行に関する学校行事を年3度の指導を行う。  
学校診断アンケートにて、「交通安全指導や避難訓練などを通して、安全に対する意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する
- 道徳の時間を要とし年間授業計画に基づいた各教科・領域の活動を通じ、相互理解・共感を広げる取組を推進する。道徳教育を充実させ、自他を尊重する児童を育成し、学校診断アンケートで「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。」の項目において、肯定的な回答の児童の割合を学校平均で70%を上回る。
- 人権を尊重する教育を推進し、学校行事「人権デー」を年1回実施する。学校診断アンケートにて、「人権デーや人権に関する学習を通して、共に生きるなかまを思いやるのが大切であることがわかった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。
- 学校図書館の利用を活性化させ、学校診断アンケートで「学校図書館を利用している。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。
- 体験活動の充実を図り学習に対する興味を高め意欲を向上させ、学校診断アンケートで「社会見学や校外活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

- 校内調査における「国語・算数の授業がわかる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上とする。
- 授業を公開する土曜授業を年間3回行い、保護者・地域が参加できる取組を土曜授業として年間1回取り組む。
- 組織的な若手教員の育成に取り組み、教員相互の学び合いにつながる校内研修が実施されるようにする。研究教科を国語科に定め、研究目標を「確かな読みの力を育てる学習指導の工夫」として取り組む。年3回の国語科の校内研究授業を行い、小学校学力経年調査における「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

- 英語教育の深化・充実を図り、児童に対する校内調査で「英語に関する活動が楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ICT を活用した教育の推進をはかり、教員に対する研修を年 1 回行い、ICT 機器を利用して授業した学年に対するアンケートで「ICT 機器を使用した授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 多文化共生教育を推進し、学校診断アンケートの「いろいろな国の人の、生活やあそびなどを知る機会がある。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 健康週間を実施し、学校診断アンケートにおける「手洗い、うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。
- 子どもの体力・運動能力向上のために体力づくりに取り組み、学校診断アンケートにおける「体を丈夫にするため、すすんで運動に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。
- 小・中学校の教職員の協力した指導等による学力向上をめざし、「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を年 2 回する。学校診断アンケートにおける「中学校へ進学することが楽しみである。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### **【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童を出さない。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

#### 学校園の年度目標

- 災害発生時に、「減災」の考え方を踏まえ、「子どもの安全を守るための防災・減災指導の手引き」を基に、区と連携した「防災・減災カリキュラム」に沿って、避難訓練などの学校行事を通して防災・減災教育を充実させる。学校診断アンケートにて、「避難訓練などを通して、防災・減災の意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。
- 安全（防犯）に対する心構えなどの指導を避難訓練で計画的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に児童が理解できるようにする。  
さまざまな場面における交通の危険について理解するとともに、体験型の学習活動を通して安全な歩行のしかたや自転車の利用のしかたを指導する。安全（防犯）の避難訓練を年 1 回行う。体験型の学習活動を通して安全な歩行のしかたや自転車の利用のしかたを年 2 回指導する。学校診断アンケートにて、「交通安全指導や避難訓練などを通して、安全に対する意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。

- 道徳の時間を要とし年間授業計画に基づいた各教科・領域の活動を通じ、相互理解・共感を広げる取組を推進する。道徳教育を充実させ、自他を尊重する児童を育成し、学校診断アンケートで「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。」の項目において、肯定的な回答の児童の割合を学校平均で70%を上回る。
- 様々な人権課題に関する学習を通して、主体的に課題解決を図ろうとする態度を養う。人権課題に関する学習成果として学校・保護者・地域に発信する場として、年度に1回「人権デー」を実施する。学校診断アンケートにて、「人権デーや人権に関する学習を通して、共に生きるなかまを思いやることが大切であることがわかった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。
- 学校図書館補助員や本校図書館ボランティアと協力して、学校図書館の活用を促す学校図書館を活用した取組を年3回行い学校図書館の利用を活性化させ、学校診断アンケートで「学校図書館を利用している。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の70%以上を達成する。
- 体験活動の充実を図り学習に対する興味を高め意欲を向上させ、学校診断アンケートで「社会見学や校外活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の75%以上を達成する。

### **【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

#### **全市共通目標（小・中学校）**

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査のうち、特に課題である20mシャトルランの調査を3学期にも再度実施し、1学期の結果よりも平均3ポイント向上させる。

#### **学校園の年度目標**

- 習熟度別少人数指導などの学習形態を活用して個に応じた指導を実施し、学習効率意欲を高め、校内調査における「国語・算数の授業がわかる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上とする。
- 土曜を活用して授業を公開する土曜授業を年間2回行い、保護者・地域が参加できる「矢田西フェスティバル」を土曜授業として年間1回取り組む。
- 組織的な若手教員の育成に取り組み、教員相互の学び合いにつながる校内研修が実施されるようにする。研究教科を国語科に定め、研究目標を「確かな読みの力を育てる学習指導の工夫」として取り組む。年3回の国語科の校内研究授業を行い、小学校学力経年調査における「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

- 英語教育の深化・充実を図り、本年度から新学習指導要領に基づき、全学年で外国語活動および外国科の学習活動を行い、児童に対する校内調査で「英語に関する活動が楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。
- ICT を活用した教育の推進をはかり、教員に対する研修を年 1 回行い、ICT 機器を利用して授業した学年に対するアンケートで「ICT 機器を使用した授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。
- 世界における多様な文化を互いに理解し合い、異なる文化を持った人々とともに生き協働していこうとする多文化共生教育を推進し、学校診断アンケートの「いろいろな国の人の、生活やあそびなどを知る機会がある。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 健康に対する現代的課題への対応を考え、健康週間の実施や「保健だより」などの活用を通して、手洗い、うがい、早寝・早起き、朝ごはんの習慣が身につくよう指導し、今年度の学校診断アンケートにおける「手洗い、うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 70%以上にする。
- なわとびやかかけあし週間などを設け、目標を立てることで進んで体力づくりに取り組み、今年度の校内アンケートにおける「体を丈夫にするため、すすんで運動に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 75%以上にする。
- 中学校進学への不安軽減のために 6 年生が中学校の行事に参加する取り組みを実施する。学校診断アンケートにおける「中学校へ進学することが楽しみである。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 70%以上にする。「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を年 2 回行う。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会の実現】については、

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】については、

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p style="text-align: center;"><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</b></p> <p><b>全市共通目標(小・中学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</li> <li>○小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。</li> <li>○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童を出さない。</li> <li>○年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</li> </ul>	
<p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○災害発生時に、「減災」の考え方を踏まえ、「子どもの安全を守るための防災・減災指導の手引き」を基に、区と連携した「防災・減災カリキュラム」に沿って、避難訓練などの学校行事を通して防災・減災教育を充実させる。学校診断アンケートにて、「避難訓練などを通して、防災・減災の意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。</li> <li>○安全(防犯)に対する心構えなどの指導を避難訓練で計画的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に児童が理解できるようにする。 さまざまな場面における交通の危険について理解するとともに、体験型の学習活動を通して安全な歩行のしかたや自転車の利用のしかたを指導する。安全(防犯)の避難訓練を年1回行う。体験型の学習活動を通して安全な歩行のしかたや自転車の利用のしかたを年2回指導する。学校診断アンケートにて、「交通安全指導や避難訓練などを通して、安全に対する意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する</li> <li>○道徳の時間を要とし年間授業計画に基づいた各教科・領域の活動を通じ、相互理解・共感を広げる取組を推進する。道徳教育を充実させ、自他を尊重する児童を育成し、学校診断アンケートで「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。」の項目において、肯定的な回答の児童の割合を学校平均で70%を上回る。</li> </ul>	

<p>○様々な人権課題に関する学習を通して、主体的に課題解決を図ろうとする態度を養う。人権課題に関する学習成果として学校・保護者・地域に発信する場として、年度に1回「人権デー」を実施する。学校診断アンケートにて、「人権デーや人権に関する学習を通して、共に生きるなかまを思いやることが大切であることがわかった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。</p> <p>○学校図書館補助員や本校図書館ボランティアと協力して、学校図書館の活用を促す学校図書館を活用した取組を年3回行い学校図書館の利用を活性化させ、学校診断アンケートで「学校図書館を利用している。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。</p> <p>○体験活動の充実を図り学習に対する興味を高め意欲を向上させ、学校診断アンケートで「社会見学や校外活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。</p>	
---	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 「いじめを許さない学級・学校づくり」を目指す。(いじめ・問題行動に対応する制度の活用)</p> <p>指標 平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 「いじめを許さない学級・学校づくり」を目指す。(いじめ・問題行動に対応する制度の活用)</p> <p>指標 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 問題行動の早期発見に努め、多様な支援を行う。(いじめ・問題行動に対応する制度の活用)</p> <p>指標 平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童を出さない。</p>	B
<p>取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 不登校や虐待に関する児童生徒の状況を適切に把握し、より丁寧な対応に取り組むことができるよう、児童理解に努める。 (不登校や児童虐待などの課題への対応)</p> <p>指標 平成31年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p>	B

<p>取組内容⑤【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】  災害発生時に、「減災」の考え方を踏まえ、「子どもの安全を守るための防災・減災指導の手引き」を基に、区と連携した「防災・減災カリキュラム」に沿って、避難訓練などの学校行事を通して防災・減災教育を充実させる。(防災・減災教育の推進)</p>	A
<p>指標  「防災・減災カリキュラム」に沿って学習を行い、学校診断アンケートにて、「避難訓練などを通して、防災・減災の意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。</p>	
<p>取組内容⑥【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】  安全（防犯）に対する心構えなどの指導を避難訓練で計画的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に児童が理解できるようにする。  さまざまな場面における交通の危険について理解する。（安全教育の推進）</p>	B
<p>指標  安全（防犯）の避難訓練を年1回行う。  体験型の学習活動を通して安全な歩行のしかたや自転車の利用のしかたを年2回指導する。  学校診断アンケートにて、「交通安全指導や避難訓練などを通して、安全に対する意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。</p>	
<p>取組内容⑦【施策② 道徳心・社会性の育成】  道徳の時間を要とし年間授業計画に基づいた各教科・領域の活動を通じ、相互理解・共感を広げる取組を推進する。(道徳教育の推進)</p>	B
<p>指標  学校診断アンケートで「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。」の項目において、肯定的な回答の児童の割合を学校平均で70%を上回る。</p>	
<p>取組内容⑧【施策② 道徳心・社会性の育成】  様々な人権課題に関する学習を通して、主体的に課題解決を図ろうとする態度を養う。(人権を尊重する教育の推進)</p>	B
<p>指標  人権課題に関する学習成果として学校・保護者・地域に発信する場として、年度に1回「人権デー」を実施する。  学校診断アンケートにて、「人権デーや人権に関わる学習を通して、共に生きるなかまを思いやることが大切であることがわかった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。</p>	
<p>取組内容⑨【施策③ 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】  学校図書館補助員や本校図書館ボランティアと協力して、学校図書館の活用を促す。(学校図書館の活性化)</p>	B
<p>指標  学校図書館を活用した取組を年3回行い学校図書館の利用を活性化させ、学校診断アンケートで「学校図書館を利用している。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。</p>	

<p>取組内容⑩【施策③ 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 体験活動の充実を図り、学習に対する興味を高め意欲を向上させる。 (産業界との連携と学習資源の有効活用)</p>	B
<p>指標 学校診断アンケートで「社会見学や校外活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。</p>	

<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>
<p>取組内容① 「いじめを許さない学級・学校づくり」を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに関する児童アンケートを取り、状況の把握に努めた。問題があるときは話を聞いて原因を究明し、お互いが納得できるように解決してきた。大きな問題に発展していったり、気になる児童がいたりする場合に、学年間や教職員で共通理解するようにしている。</li> </ul> <p>取組内容② 「いじめを許さない学級・学校づくり」を目指す。(いじめ・問題行動に対応する制度の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイム週間を月 1 回実施し、チャイムへの意識を高めるようにしている。</li> <li>・ホームページで月・週目標を知らせて、家庭への啓発に努めている。</li> <li>・看護当番が児童の様子をよく観察し、毎週の引き継ぎで出てきた課題を改善できるように、月・週目標を話し合い、児童朝会で伝えるようにしている。</li> </ul> <p>取組内容③ 問題行動の早期発見に努め、多様な支援を行う。(いじめ・問題行動に対応する制度の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暴力行為が起こらないように、クラスで指導を行っている。実際に事象が起こった時は、クラスで指導、教職員で共通理解し、再発を未然に防ぐよう指導を行っている。</li> </ul> <p>取組内容④ 不登校や虐待に関する児童生徒の状況を適切に把握し、より丁寧な対応に取り組むことができるよう、児童理解に努める。(不登校や児童虐待などの課題への対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任だけでなく、教職員で連携をとりながら当該児童へのコンタクトや保護者への伝達を徹底している。連絡を怠らず、気になることがあれば、家庭訪問を行っている。</li> <li>・不登校や虐待の状況については、中学校と連携をとり、児童の様子や家庭の状況、対応の方法等、共通理解できるようにしている。</li> </ul> <p>取組内容⑤ 災害発生時に、「減災」の考え方を踏まえ、「子どもの安全を守るための防災・減災指導の手引き」を基に、区と連携した「防災・減災カリキュラム」に沿って、避難訓練などの学校行事を通して防災・減災教育を充実させる。(防災・減災教育の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に起こりうるケースを想定して訓練を実施しているため、北運動場や体育館に避難することを徹底できたので、実際に避難するときに自然と集合できるようになった。</li> <li>・今年度は初めて緊急引き渡し訓練を行い、児童の安全確保と保護者への確実な引き渡しをスムーズに行うための訓練ができた。</li> </ul>

取組内容⑥ 安全（防犯）に対する心構えなどの指導を避難訓練で計画的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に児童が理解できるようにする。さまざまな場面における交通の危険について理解する。（安全教育の推進）

- ・歩行訓練、防犯訓練ともに計画どおり実施できている。
- ・学校外での交通安全をより意識していくために、登下校時の歩き方や公園での遊び方等、日々指導している。また、未然に事故を防ぐように、各クラス、朝会等で指導をするようにしている。

取組内容⑦ 道徳の時間を要とし年間授業計画に基づいた各教科・領域の活動を通じ、相互理解・共感を広げる取組を推進する。（道徳教育の推進）

- ・特別の教科「道徳」として、年間計画を基に、計画的に実施している。また、通知票の所見の記載についても、教職員で共通理解を図りすすめている。

取組内容⑧ 様々な人権課題に関する学習を通して、主体的に課題解決を図ろうとする態度を養う。（人権を尊重する教育の推進）

- ・11月の人権デーに向けて、各学年が実践を進めているところである。

取組内容⑨ 学校図書館補助員や本校図書館ボランティアと協力して、学校図書館の活用を促す。（学校図書館の活性化）

- ・1学期には、図書館補助員による図書室でのルール・マナーや分類クイズなどを内容としたオリエンテーションを全学年で行った。
- ・2学期には図書委員会を中心に「新刊フェア」を低学年図書室で開催し、常に本を身近に感じられる環境づくりを行ったり、「読書の木」の掲示を行ったりしていく予定である。
- ・3学期にも、図書館を利用したくなるようなイベントを行う予定である。
- ・引き続き、補助員、ボランティアと協力して、季節や行事に合わせた展示を行っている。
- ・決まった曜日以外にも開館をした。（雨が降っているとき等）

取組内容⑩ 体験活動の充実を図り、学習に対する興味を高め意欲を向上させる。

（産業界との連携と学習資源の有効活用）

- ・各学年で社会見学や校外学習を行い、学習に活かしている。
- ・タブレット端末を効果的に使い、児童が情報を収集したり調べたりできるような校外学習にしている。

## 課題・次年度への改善点

取組内容② 「いじめを許さない学級・学校づくり」を目指す。(いじめ・問題行動に対応する制度の活用)

- ・安全のために、廊下・階段を走らない意識をもつことができるようにする。

取組内容④ 不登校や虐待に関する児童生徒の状況を適切に把握し、より丁寧な対応に取り組むことができるよう、児童理解に努める。(不登校や児童虐待などの課題への対応)

- ・児童の様子に日頃より目を配り、変化を見逃さないようにする。
- ・児童の人権意識を高め、人を思いやる気持ちを育む教育をすることで、不登校児童が登校できた際も、優しく接することのできる児童を育てるようにする。
- ・不登校児童の様子や家庭の状況、対応の方法等を今後も共有し、対応に活かす。

取組内容⑥ 安全(防犯)に対する心構えなどの指導を避難訓練で計画的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に児童が理解できるようにする。さまざまな場面における交通の危険について理解する。(安全教育の推進)

- ・学校外での交通安全をより意識し、未然に事故を防ぐために、日々の生活を意識した指導を、各クラスや朝会等で行う。
- ・登下校の状況をPTA見守り隊と連絡会等で共有を図り、指導に活かす。

取組内容⑦ 道徳の時間を要とし年間授業計画に基づいた各教科・領域の活動を通じ、相互理解・共感を広げる取組を推進する。(道徳教育の推進)

- ・今後も道徳の授業にて教材や学級の実態に応じ、学習を進めていく。
- ・道徳のモデル授業を参考にし、授業資料の提示などを通して、児童の話し合い活動を取り入れた授業展開を、教職員にひろめていき、主体的・対話的で深い学びにつなげられるようにする。

取組内容⑨ 学校図書館補助員や本校図書館ボランティアと協力して、学校図書館の活用を促す。(学校図書館の活性化)

- ・読書月間等、読む意欲を高める機会を作っているが、なかなか参加しない児童も多くいる。一部の児童だけが参加するのではなく、学校全体で読書活動を楽しめるよう取組をすすめる。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標(小・中学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</li> <li>○小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。</li> <li>○小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。</li> <li>○小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</li> <li>○平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査のうち、特に課題である 20 m シャトルランの調査を 3 学期にも再度実施し、1 学期の結果よりも平均 3 ポイント向上させる。</li> </ul>	
<p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度別少人数指導などの学習形態を活用して個に応じた指導を実施し、学習効率意欲を高め、校内調査における「国語・算数の授業がわかる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上とする。</li> <li>○土曜を活用して授業を公開する土曜授業を年間 2 回行い、保護者・地域が参加できる「矢田西フェスティバル」を土曜授業として年間 1 回取り組む。</li> <li>○組織的な若手教員の育成に取り組み、教員相互の学び合いにつながる校内研修が実施されるようにする。研究教科を国語科に定め、研究目標を「確かな読みの力を育てる学習指導の工夫」として取り組む。年 3 回の国語科の校内研究授業を行い、小学校学力経年調査における「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</li> <li>○英語教育の深化・充実を図り、本年度から新学習指導要領に基づき、全学年で外国語活動および外国科の学習活動を行い、児童に対する校内調査で「英語に関する活動が楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</li> <li>○ICT を活用した教育の推進をはかり、教員に対する研修を年 1 回行い、ICT 機器を利用して授業した学年に対するアンケートで「ICT 機器を使用した授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</li> </ul>	

<p>○世界における多様な文化を互いに理解し合い、異なる文化を持った人々とともに生き協働していこうとする多文化共生教育を推進し、学校診断アンケートの「いろいろな国の人の、生活やあそびなどを知る機会がある。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</p> <p>○健康に対する現代的課題への対応を考え、健康週間の実施や「保健だより」などの活用を通して、手洗い、うがい、早寝・早起き、朝ごはんの習慣が身につくよう指導し、今年度の学校診断アンケートにおける「手洗い、うがいをしっかりし、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。</p> <p>○なわとびやかけあし週間などを設け、目標を立てることで進んで体力づくりに取り組み、今年度の校内アンケートにおける「体を丈夫にするため、すすんで運動に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。</p> <p>○中学校進学への不安軽減のために 6 年生が中学校の行事に参加する取り組みを実施する。学校診断アンケートにおける「中学校へ進学することが楽しみである。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。また、「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を年 2 回行う。</p>	
---	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 児童一人ひとりの学習理解度及び学習状況等を客観的・経年的に把握・分析し、個に応じた支援を充実させることで、基礎的・基本的な能力、知識・技能を活用する能力の育成を図る。(全市共通テストの導入)</p>	
<p>指標 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p>	
<p>取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 児童一人ひとりの学習理解度及び学習状況等を客観的・経年的に把握・分析し、個に応じた支援を充実させることで、基礎的・基本的な能力、知識・技能を活用する能力の育成を図る。(全市共通テストの導入)</p>	
<p>指標 ○小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。</p>	

<p>取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】          児童一人ひとりの学習理解度及び学習状況等を客観的・経年的に把握・分析し、個に応じた支援を充実させることで、基礎的・基本的な能力、知識・技能を活用する能力の育成を図る。(全市共通テストの導入)</p>	
<p>指標          ○小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。</p>	
<p>取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】          全ての学習の基盤となる言語能力等の育成を重視し、主体的・対話的な深い学びを重点に置いた、優れた授業実践や校内研修の実施に取り組む。</p>	
<p>指標          平成31年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】          習熟度別少人数指導などの学習形態を活用して個に応じた指導を実施する。          (学校力UPベース事業)</p>	
<p>指標          学習効率意欲を高め、校内調査における「国語・算数の授業がわかる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上とする。</p>	B
<p>取組内容⑥【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】          土曜日を活用し、授業の公開や保護者・地域住民が参加する活動の実施など、開かれた教育活動を進める。(教育活動のための時間の確保)</p>	
<p>指標          土曜を活用して授業を公開する土曜授業を年間2回行い、保護者・地域が参加できる「矢田西フェスティバル」を土曜授業として年間1回取り組む。</p>	B
<p>取組内容⑦【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】          組織的な若手教員の育成に取り組み、教員相互の学び合いにつながる校内研修が実施されるようにする。研究教科を国語科に定め、研究目標を「確かな読みの力を育てる学習指導の工夫」として取り組む。</p>	
<p>指標          年2回の国語科の校内研究授業を行い、小学校学力経年調査における「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p>	B
<p>取組内容⑧【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】          基礎基本の英語を大切に英語教育の深化・充実を図り、本年度から新学習指導要領に基づき、全学年で外国語活動および外国科の学習活動に取り組む。          (英語教育の強化)</p>	
<p>指標          児童に対する校内調査で「英語に関する活動が楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	B

<p>取組内容⑨【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 ICTを活用した教育の推進をはかり、教員に対する研修を年1回行う。 (ICTを活用した教育の推進)</p>	
<p>指標 ICT機器を利用して授業した学年に対するアンケートで「ICT機器を使用した授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	<b>B</b>
<p>取組内容⑩【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 世界における多様な文化を互いに理解し合い、異なる文化を持った人々とともに生き協働していこうとする多文化共生教育を推進する。(多文化共生教育の推進)</p>	
<p>指標 学校診断アンケートの「いろいろな国の人の、生活やあそびなどを知る機会がある。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	<b>B</b>
<p>取組内容⑪【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 子どもの体力・運動能力向上に向けて、子どもへの取り組みの改善を図るとともに、体育科の学習において、運動が苦手な子どもや消極的な子どもへの手だてを工夫することを継続して取り組んでいく。(子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実)</p>	
<p>指標 学校診断アンケートにおける「体を丈夫にするため、すすんで運動に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を75%以上にする。 平成31年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査のうち、特に課題である20mシャトルランの調査を3学期にも再度実施し、1学期の結果よりも平均3ポイント向上させる。</p>	<b>B</b>
<p>取組内容⑫【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 健康に対する現代的課題への対応を考え、健康週間の実施や「保健だより」などの活用を通して、手洗い、うがい、早寝・早起き、朝ごはんの習慣が身につくよう指導する。(健康に関する現代的課題への対応)</p>	
<p>指標 学校診断アンケートにおける「手洗い、うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。</p>	<b>B</b>
<p>取組内容⑬【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 なわとびやかかけあし週間などを設け、目標を立てることで進んで体力づくりに取り組む。(子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実)</p>	
<p>指標 校内アンケートにおける「体を丈夫にするため、すすんで運動に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。</p>	<b>B</b>

<p>取組内容⑭【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】          中学校進学への不安軽減や小・中学校の教職員の協力した指導等による学力向上をめざし、「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を推進する。          (小中一貫教育の充実)</p>	<h1>B</h1>
<p>指標          6年生が中学校の行事（体育祭や文化祭）に参加したり、中学校の授業体験やクラブ紹介に参加したりする。          理科の指導において中学校教員による授業を実施する。          「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を年2回行う。          学校診断アンケートにおける「中学校へ進学することが楽しみである。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を70%以上にする。</p>	

<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>
<p>取組内容④ 全ての学習の基盤となる言語能力等の育成を重視し、主体的・対話的で深い学び「アクティブ・ラーニング」の視点から、優れた授業実践や校内研修の実施に取り組む。（「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の推進）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合う活動に対して、肯定的な回答をしている児童が増えている。</li> <li>・ペアで意見を交流したり、グループで話し合ったりするなど、授業の学習形態を工夫して取り組んでいる。</li> </ul> <p>取組内容⑤ 習熟度別少人数指導などの学習形態を活用して個に応じた指導を実施する。（学校力UPベース事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容に応じて、3年生から習熟度別・少人数学習を行っており、個に応じた学習に取り組んでいる。また、単元によっては「TT（チーム・ティーチング）」の形で進めるなど、担任と習熟度担当が連携を図り、実態に応じて学習形態も工夫している。</li> </ul> <p>取組内容⑥ 土曜日を活用し、授業の公開や保護者・地域住民が参加する活動の実施など、開かれた教育活動を進める。（教育活動のための時間の確保）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜授業を活用して、授業公開を行っている。</li> <li>・今年度から土曜授業を活用して、非常時の引き渡し訓練も実施し、児童の安全管理に努めている。</li> </ul>

取組内容⑦ 組織的な若手教員の育成に取り組み、教員相互の学び合いにつながる校内研修が実施されるようにする。研究教科を国語科に定め、研究目標を「確かな読みの力を育てる学習指導の工夫」として取り組む。

- ・主体的、対話的な深い学びの学習を日々の授業の中で実施し、学力の向上、書く力の育成を目指し、各学年が発達段階に応じた取組を実施している。特に今年度は、児童一人一人に国語辞典を持たせ、言葉に興味を持たせる取組を実施している。さらに読書量を増やすために、教師による読み聞かせや、それぞれの学年に応じた取組を行っている。そして、基礎基本の定着をめざし、5・6年生で月1回程度、国語・算数の基礎プリント学習を、全職員でサポートする取組も行っている。

- ・2学期は、低・高学年で国語科の研究授業を予定している。さらに研修を深め、子ども一人一人の状況に応じた学力向上へと努める。

取組内容⑧ 基礎基本の英語を大切に英語教育の深化・充実を図り、本年度から新学習指導要領に基づき、全学年で外国語活動および外国語科の学習に取り組む。(英語教育の強化)

- ・DVD教材「Dream」や絵本教材を活用して、週2回のモジュール学習を行い、多くの児童が意欲的に活動に取り組んでいる。

- ・昨年度から週2回に変更して、学習をさらに深めることができている。職員朝会の精選等、時間を生み出すことで、外国語活動の時間を確保できた。

取組内容⑨ ICTを活用した教育の推進をはかり、教員に対する研修を年1回行う。

(ICTを活用した教育の推進)

- ・日々の授業でもデジタル教科書やパワーポイント等を活用し、学習内容の理解に役立っている。社会見学や遠足などの校外学習で、児童が使用することが多くなった。

取組内容⑩ 世界における多様な文化を互いに理解し合い、異なる文化を持った人々とともに生き協働していこうとする多文化共生教育を推進する。(多文化共生教育の推進)

- ・今年度から「ワールドレンタル」を2学期だけ実施するようにした。1学期には、あいさつ週間で「ワールドあいさつ」を実施し、さまざまな国のあいさつを知る機会を作っている。

- ・矢田西ワールドクラブ(YWC)の活動では、さまざまな国の生活やあそびについて知る機会を設けている。

取組内容⑪ 子どもの体力・運動能力の向上に向けて子どもへの取り組みの改善を図るとともに、本年度の研究教科を体育科にし「運動が苦手な子どもや消極的な子どもへの手だてを工夫する」ことについて、研究していく。(子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実)

- ・体育科の学習では、運動が苦手な子どもや消極的な子どもへの手だての工夫として、スモールステップで取り組めたり、運動量を確保できたりする安全な場の設定をした。また、日頃の運動量を増やすため、たてわり遊びやペア学年による遊び、学校でのみんな遊びに取り組んでいる。

取組内容⑫ 健康に対する現代的課題への対応を考え、健康週間の実施や「保健だより」などの活用を通して、手洗い、うがい、早寝・早起き、朝ごはんの習慣が身につくよう指導する。（健康に関する現代的課題への対応）

- ・健康週間を実施することで学校全体で「手洗い・うがい」、「早寝・早起き、朝ごはん」への意識を高めている。また、ほけんだよりを活用したり、保健委員会の児童が健康の大切さを発表したりして、児童の意識は高まっている。

取組内容⑬ なわとびやかかけあし週間などを設け、目標を立てることで進んで体力づくりに取り組む。（子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実）

- ・1,2学期に6年生が1~5年生と一緒に鉄棒に取り組む「鉄棒強調週間」を設けて、児童が運動に親しみ体力の保持増進できるように取り組んでいる。
- ・運動が消極的になってしまう冬に、ランニング集会やなわとび集会を行い、年間を通じて運動量を確保できるようにした。また今年度は、大なわ記録会を行い、さらに運動量を増やせるように取り組む。

取組内容⑭ 中学校進学への不安軽減や小・中学校の教職員の協力した指導等による学力向上をめざし、「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を推進する。

(小中一貫教育の充実)

- ・1学期末に小中の教員合同での研修を実施した。11月末には、2回目の合同研修を予定している。
- ・6年生が中学校の行事を見学したり、中学校で体験授業を受けたりして校種間の円滑な接続をめざした取組も同時に進めている。

## 課題・次年度への改善点

### 取組内容⑦【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

組織的な若手教員の育成に取り組み、教員相互の学び合いにつながる校内研修が実施されるようにする。研究教科を国語科に定め、研究目標を「確かな読みの力を育てる学習指導の工夫」として取り組む。

- ・基礎基本の定着をめざした取組を継続して行う。
- ・子どもの学力アップにつながる授業展開を工夫していく。

取組内容⑧ 基礎基本の英語を大切にしている英語教育の深化・充実を図り、本年度から新学習指導要領に基づき、全学年で外国語活動および外国語科の学習に取り組む。（英語教育の強化）

・児童の意欲が増すにつれ、DVD教材「Dream」の内容だけでは活動が限られてしまうので、高学年も意欲的に活動できる歌やチャンツを取り入れる。

取組内容⑩ 世界における多様な文化を互いに理解し合い、異なる文化を持った人々とともに生き協働していこうとする多文化共生教育を推進する。（多文化共生教育の推進）

・ワールドレンタルの種類が限られてきているので、児童に飽きが来ないように、新たに興味・関心を高められるイベントを企画していく必要がある。

取組内容⑪ 子どもの体力・運動能力の向上に向けて、子どもへの取り組みの改善を図るとともに、体育科の学習において、運動が苦手な子どもや消極的な子どもへの手だてを工夫することを継続して取り組んでいく。（子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実）

- ・運動の持久力の向上（20mシャトルランの記録向上）につながる運動を継続して行う。

### 取組内容⑫【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

健康に対する現代的課題への対応を考え、健康週間の実施や「保健だより」などの活用を通して、手洗い、うがい、早寝・早起き、朝ごはんの習慣が身につくよう指導する。（健康に関する現代的課題への対応）

- ・学校での手洗い・うがいの意識は高まってきているが、家庭での早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣が身につけていない児童に啓発する取組を行う。

取組内容⑬ なわとびやかけあし週間などを設け、目標を立てることで進んで体力づくりに取り組む。（子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実）

- ・運動嫌いの児童への取組を工夫する。

### 取組内容⑭【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】

中学校進学への不安軽減や小・中学校の教職員の協力した指導等による学力向上をめざし、「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を推進する。

（小中一貫教育の充実）

- ・行事参加の際の日程・時程を早めに調整する。

令和元年度 学校関係者評価報告書

大阪市立 (学校園名) 学校協議会

1 総括についての評価

--

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：
年度目標：
<ul style="list-style-type: none"><li>•</li><li>•</li><li>•</li><li>•</li></ul>

3 今後の学校園の運営についての意見

--